

【当たり前の日常に無限の幸せ】

【なによりのご褒美】

先月は私の人生にとって、大きな節目の一月月になったと思えば言い過ぎでしょうか？

『少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず・・云々』朱熹（しゅき）の【偶成（ぐうせい）】という有名な詩があります。

人生の時は、アツという間に過ぎ去ってしまう。少年時代を楽しむうち、早くも老境は迫ってくるものだから、わずかな時も無駄に過ごしてはならない、という格言です。

この言葉を、今日ほど実感した事はないかもしれません。

五月十日（土）には、富山県公立幼稚園連絡協議会の新旧入れ替えがあり、新役員へ無事にバトンを渡すことが出来ました。

総会後には、互いの労をねぎらった食事を催しました。新旧引継ぎに時間がかかり、食事会場には一時間以上遅れて到着したにもかかわらず、食事を目の前に正座をして全員待っていてくれました。皆の思い遣りの気持ちが本当に嬉しかった。

最後に撮影した記念写真は、みんな満面の笑顔の一枚。この時の感動と共に一生忘れる事のない宝物になりました。



また十六日には、二年間務めさせて頂いた「全国日蓮宗青年会」実行委員長の任を辞しました。新旧入れ替えも無事に終わり、大きくのし掛かっていた肩の荷が下りホッとしたと同時に、居心地が良すぎた分、寂しい思いに駆られています。



どちらの組織も、ただ順番が回ってきた形だけのグループじゃなくて、本

当に心の通った素晴らしい仲間達との出会いと別れ：まさに人生の妙味です。大変なことも多々ありましたが、それ以上に《仲間》という、何よりの宝物を手に入れることが出来ました。

坂村真民さんの詩が心に響きます：

【わたしが私となるために、人生の失敗も必要でした。

無駄な苦心も骨折りも、悲しみもすべて必要でした。

私がわたしになれた今、みんなあなたのおかげです。

恩人たちに掌を合わせ、「ありがとうございました」と、ひとりごと」

人生は生涯をかけて自分を完成させていく修養の道程。さて、次のステージに天下歩歩（てんかふぶ）。

【掛け替えない奇跡の連続】

「幸せ」や「楽しみ」というものは、何も特別なものではないと思います。

それは何気ない日常の一コマにこそあるのではないのでしょうか？例えば、「お

はよう」の掛け合いで一日を始めることができる家族。その家族みんなが、

元気で仲良く食事ができる。おかずに

出た魚を子供達が「おいしい」と言っ

て食べている。そして子供達が元気にすくすく成長していく。お爺ちゃんも

お婆ちゃんも笑顔が絶えない：そう

いう言わば「当たり前」の情景の中にこそ、掛け替えない大きな喜びを見出せるはずです。ただ、私達は

否応なしに、忙しい日常に振り回されて生活していると、なかなか「幸せ」

や「楽しみ」を意識する事ができないのも現実でしょう。だからといっ

て、チルチルミチルの『青い鳥』の様に、他に何かを求めてみても、元土台がシッカリしていないと、心が震えるような幸福を見つける事が

できないのではないのでしょうか？旅行が楽しいのは、帰る家があるからでしょう。

私達の何気ない日常生活の中で、

「当たり前」の様に目の前に繰り広げられている現実が、本当は大変な奇跡でもあります。命が与えられていることも、家族団欒の場を持てるこ

とも、会社や学校まで電車やバスを乗り継いで到着できることも、一日

無事仕事が終わられることも、決して「当たり前」という簡単な言葉で

片付けられるようなものではありません。一瞬一瞬の奇跡の連続の中で、

私達は生かされている事をシッカリ自覚したいものです。

私達は必要以上に何かを求めて、毎日あくせく生きています。「幸せ」や「楽しみ」は、決して遠くに求める必要はありません。目の前の一瞬一瞬、今いるこの場で感じる事が出来る全てが、かけがえのない宝物なのではないでしょうか。

【教育のすすめ】

人生をよりよく生きる為に欠かせない要素の一つが『教育』です。教育には、私達が「幸せ」に「楽しく」生きる為の道を教えるという重要な役割があります。理想的には、家庭教育・学校教育・地域教育が三位一体となって、将来有望な子供達に教育環境を整えてあげる事です。がしかし、そんな教育現場が荒廃しています。家庭での躾教育もままならない親達が、学校にクレームをつける。それも筋の通らない我が儘な物言いが多い。法律だ、責任だと、理屈ばかりをこねて、挙げ句の果ては「先生を辞めて下さい」と詰め寄るクレーム（親達）。学校では、何か事が起こると責任を取れないと、体当たりの本音で教育を施す事ができない先生方は、ただ単に点数を取るためのだけの勉強を子供達に詰め込む。地

域では「おはよう」と声をかけても、下を向いたまま返事もしない子供達の寂しげな姿。あたかもお通夜のような様相に驚くと共に危機感を抱くのは私だけではないでしょう。そんな夢も希望も無い社会に「幸せ」や「楽しみ」を見い出せるはずがありません。

教育の荒廃と共に、人心も荒廃してきました。

【イジメ問題】

私は教育、とりわけ躾教育に問題があると思っています。言うまでもなく、躾教育は家庭教育がその基本となります。正月号に掲載した『幸田露伴の掃除道』を通しての躾教育。また四月号には、心が満たされない子供達の『ハウスレス』という実態をご紹介しました。今一度お目通し頂ければ幸いです。子供達は家庭教育を経て、学校教育に入っていくわけですが、その学校では、家庭で心が満たされない子供達が引き起こす『イジメ』が多発。いま小中学校のうち、実に十七万五千人が不登校という統計が発表されています。その原因の半数近くが『イジメ』だそうです。この深刻化する『イジメ』に対応すべく、官邸で教育再生実行会議が立ち上がり、その第一の提言として

【いじめ対策】が掲げられました。

平成二十五年六月二十八日に与野党の議員立法によって国会で可決成立し、三ヶ月後の九月二十八日に『いじめ防止対策推進法』が施行。ただ、『イジメ』は陰湿なもの。制度が出来上がったとて、一体どこまで規制することができ、表沙汰にできるものなのか一抹の不安は拭いきれませんが、いずれにしても、前進した事には変わりないでしょう。

【不安心は不安定な社会を作り出す】

イジメは子供達だけの問題ではありません。大人社会が子供社会の鏡です。学校にクレームをつける親も、責任を背負うリスクを恐れる学校も、諸問題を時代のせいにする地域社会も、本当は子供の夢や目標に視点が置かれなければいけないはずなのに、目先の事しか見えなくなつた狭い視野で物事の判断をするツケが、不安定な社会を作り出しているのではないのでしょうか？

自分ではなく、他者に意識が向いてしまうのは、自分に自信や安心感が無い事の裏返しではないかと思えます。こうした状況を変えるための一つには、修身、道徳、あるいは宗教的な信仰心を以て、人間として当たり前の考え（善と悪）と、行動の基準を教える教

育の復活にあると思います。何も難しい事はありません。学級崩壊が常態化した今日、挨拶・言葉の使い方を大人が徹底する事です。人間は言葉を元に思考していくのですから、言葉が育てば心が育つ、という捉え方をしなければなりません。

アメリカの心理学者・ウィリアム・ジェームスは『言葉が変われば心が変わる。心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる』と明言しています。

学ぶ事の大切さを知る人は、同時に学ぶ事の楽しさを知る人であり、自分自身を変えていくことが出来る事を知る人でもあるはずです。我々大人の役割は、そんな学びの火を子供達に点火してあげる事なのではないかと思えます。そして、一瞬一瞬「当たり前」の『幸福』を感じられる社会の実現を目指したいものです。

合掌 副住職 谷川寛敬

